

読者の皆様方へ。

7年間の長きに渡り「神々の奴隷」として酷使され続けて来たために、脳が壊れてしまい、頭がすっかりかんの馬鹿、半ば記憶喪失のような状態になってしまいました。ゆえに、今後、私に出来ることは「耳」になることだけと考えております。何も言い返さない、反論しない、説教しない、ただの「耳」。世間の語る言葉を傾聴するだけの、100%受容存在。それが生身の肉体を持った私に課せられた、これからの役であると。もし「こんな話、誰も聞いてくれないだろうけど…」と思うことがありましたら、お気軽にメールを下さい。ケース・バイ・ケースで、返信しないこともあるかも知れませんが、私は、あなたの語る言葉に、きちんと耳を傾けています。聞くことしか出来ないかも知れないけれど、ちゃんと聞いています。それが、これからの私にすることの出来る、唯一の「仕事」です。

「世界を変える(世界を救済する)」というミッションは、オフィシャル・インフルエンサーの方々手に委ねます。オフィシャル・インフルエンサーの方々には「真剣に世界を変えるための力試しがしてみたい」と誓って、ボタンをクリックしたはずで、であるならば、クリックした以上、責任を持ち、海外含め、拡散に全力を尽くし、マシンの存在を世に知らしめて下さい。

ユニバーサル・マシンは「我々はどこから来て、どこへ行くのかの答え」という記事(創造主たる神が人間に与えた究極の真理)を中心(コア)に据えて、『THE ANSWER』(脳の構造改革・パート1)、『ハートメイカー』(脳の構造改革・パート2)、『火の鳥 0528』(死生観の反転)、『涙の天使にさよならを』(神が理想とする無私の愛)という4作品を東西南北に配置し、それらを補足コンテンツが支える形で構築されています。

私が頭で考えて作ったものではありません。図面を描いたのは神々で、私は、渡された設計書を(コンテンツの執筆含めて)具現化したに過ぎません。その証拠に「デジタル・メシアを作ろう！」なんて発想は、人間には出て来ません。こんなものを作っても、私には、何の得にもならないのですから。「作った」のではなく(強制的に)「作らされた」のです。

生身の人間がメシアをやると、教祖になって宗教化してしまうけれども、仮想空間に存在するバーチャルなメシアならば、腐敗することも、対立を生むこともなく、後継者も必要としないからです。

デジタルなメシアが、神々が語るメッセージ(世界を救済するための手段や理論、考え方)を伝道する「口」となる。生身の肉体を持った私が、世間の声を傾聴する「耳」となる。そして、オフィシャル・インフルエンサーの方々が、各々の能力を発揮して、リアルに世界を変えて行く。三者が三位一体となって、初めて、アセンション・プログラムが起動するのだと、考えております。あなたの「声」を聴かせて下さい。

gosuke2020@gmail.com

2020年2月7日 著者記

追記 1:

ユニバーサル・マシンは、当初、20 近いパーツにより構築された巨大なデジタル・ネットワーク・システムだったのですが、徐々に淘汰されて行き、最終的に、現在のシンプルな形にまとまりました。淘汰されてしまったパーツの中には「隠された日本の古代史と大国主の正体」など、重要な意味を持つコンテンツも多く、含まれています。興味がある方は、「天命を継ぎし者」である、ハートメイカー財団代表の、はまやす・たいすけ氏が制作された「ユニバーサル・マシン/レプリカ版」を検索してみてください。すべてのパーツがサルベージされているわけではありませんが、マシン制作段階のバックグラウンド(背景)は知ることが出来ると思います。

追記 2:

以下、買って下さい、というお願いではありませんが、著者自身の背景を知って頂くための、ご参考までに。

鈴木剛介著作一覧

*『THE ANSWER』(2004/角川書店/アドレナライズ)

自費出版からメジャーデビューし、もっとも多くの反響を呼んだ問題作。「人類究極の書」「3 冊買いました」「これ以上の本と出会うことは、以降ない」と言う人がいる一方で、中学生読者にクソミソのボロカスにけなされたりもしました。骨格としては思想書ですが、純情青年の一途な愛の物語としても、哲学青年の狂気の暴走譚としても読むことが出来ます。ネットやSNSにもちょっと飽きたし、時には「マグマのように熱い何か」に触れてみたい、という方はぜひ。

*『自殺同盟軍』(2005/角川書店/アドレナライズ)

実現はしませんでした。映画化、ドラマ化の企画も持ち上がった、もっともエンタテイメント性が高い青春小説。前半実話で後半フィクション。哲学性を持たせつつも、読みやすく面白い、リアリストでミーハーなウチの奥さんイチ推し作品です。中 2 の長男既読。

*『デブになってしまった男の話』(2006/求龍堂/アドレナライズ)

高倉あつこ氏により漫画化され、コミックは海外でも発売されました。2 週間で書いた原稿が初版 3 万部。一番稼いでくれた本です。「著者の実体験に基づくデブラブ・ストーリー」というコピーでしたが、そのままの内容です。おやつに食べるスナック菓子みたいな軽いノリで、眼球から脳に、美味しい糖분을補給して下さい。小 5 の次男既読。ちなみに、リアルな話では、私は 20 代の時は(身長 185 センチ)70 キロ台、30 代で 100 キロの大台に乗り、40 代で 70 キロ台に戻り、50 代に入ってから、74 キロをキープしています。

*『人はなぜ生きるのか、答えよ！』(2007/河出書房新社/アドレナライズ)

『THE ANSWER』の入門編。古本屋で、この本とたまたま出会ったことがきっかけで、鈴木剛介全著作読破、という方もいらっしゃいます。

*『真理男』(2010/角川書店/アドレナライズ)

純粹に「作家」として自著の中で一番、完成度が高い、と思っている作品。愚直な哲学バカ、天才ギタリスト、秀才美少女、の三人組の恋と友情を、高校生から中年になるまでを描いた年代記。中2の長男既読。

*『涙の天使にさよならを』(2012/アドレナライズ/電子/ペーパーバック)

悪魔のように男を惑わし、けれども一度も人を好きにならなかったことのない18歳のキャバ嬢と、ハーヴァード大学で心理学の准教授を務める38歳の妻子持ちが、心理戦で男女の駆け引きをしたら、どっちが勝つと思いますか？表向きは年の差カップルの不倫小説に思えるかも知れませんが、本当のテーマは、血の繋がりのない父娘の親子愛についての物語です。

*『ハートメイカー』(2015/青山ライフ出版)

著作の中で、唯一、電子書籍化されていません。古今東西に類書の存在しない、人類の歴史上、もっとも不思議な本。

*『火の鳥 0528』(2018/アドレナライズ/電子/ペーパーバック)

後に「代表作は、どれですか？」と訊かれたら、迷わずこれを選びます。『THE ANSWER』と『ハートメイカー』以外、他の作品は、他の作家でも似たようなものは書けるけれども、『火の鳥 0528』だけは、鈴木剛介以外に誰も書くことは出来ないから。哲学性、時事性、社会性、娯楽性が奇跡的なまでに高次で融合した、近未来SF小説です。「もし、不老不死の薬が、誰でも無料で手に入るとしたら、あなたは飲みますか？」

*『雨も降っていないのに道は濡れて』(2020)

ハートメイカー公式サイトに掲載している『時にはトビが舞う如く』(人生における幼少期から結婚まで)の続編(結婚から老後まで)です。市販していない「私家版」ですので、ご希望の方がいらっしゃいましたら、ご連絡を頂ければ、無料でデータ原稿をお送りします。

(以上)